

▼ 受賞者一覧 (敬称略)

最優秀賞		
おおよま 大山 慶	伊達小5年	
さとう 佐藤 亜矢斗	月館学園中2年	
優秀賞		
さとう 佐藤 優美	掛田小6年	
たしろ 田代 結衣	保原小6年	
たけだ 武田 杏奈	桃陵中2年	
つしま 對馬 佳凜	伊達中2年	

優良賞		
あきは 秋葉 優真	伊達小6年	
おの 小野 瑛士朗	伊達東小5年	
やしま 八島 心優	石田小5年	
いとう 伊東 琢磨	月館学園小6年	
かんの 菅野 りり愛	霊山中2年	
さいとう 齋藤 理那	月館学園中3年	
さとう 佐藤 空道	松陽中1年	
せきね 関根 颯星	月館学園中1年	

佳作		
わたなべ 渡邊 結菜	栗野小6年	
まくた 幕田 幸穂	堰本小5年	
さとう 佐藤 ひなた	上保原小5年	
さいとう 齋藤 こはる	掛田小5年	
よしだ 吉田 奈々美	梁川中2年	
かんの 菅野 ゆうか	桃陵中1年	
みうら 三浦 りあ	伊達中3年	
いしかわ 石川 佳依	梁川中1年	

**伊達市民憲章 (抜粋)**

- 一 まもりましょう  
ふるさとの自然と歴史を
- 一 つなぎましょう  
世代の絆とたしかな信頼を
- 一 そだてましょう  
支えあいと思いやりの気持ちを
- 一 きずきましょう  
学ぶ心とゆたかな文化を
- 一 めざしましょう  
すこやかで活力のあるまちを

# 伊達市民憲章作文コンクール

テーマ「めざしましょう すこやかで活力のあるまちを」

伊達市民憲章作文コンクールは、平成 29 年度から実施しており、今年度で 5 年目を迎えます。市内の小学 5、6 年生と中学生を対象に作品を募集しました。小学生の部 367 点、中学生の部 141 点の応募があり、11 月の審査会で 22 点の受賞作品が決定しました。

選ばれた作品はどれも素晴らしく、伊達市をより良くするために自分にできることを一生懸命考えている作品が多くありました。各部の最優秀賞に輝いた作品をご紹介します。

☎ 総務課総務係 ☎ 575-1239

伊達市民憲章作文のテーマ「めざしましょう すこやかで活力のあるまちを」を見たとき、祖母の顔が浮かびました。

僕の祖母は、月館町に一人で暮らしています。学校の帰りに祖母の家に寄ると、近所の人達とウォーキングに出かけて留守のときがありました。祖母はウォーキングで体力づくりをしているのです。コロナ禍になる前は、保原町の市民プールへも行っていました。運動をすることで友達もできて、とても楽しそうでした。

仕事をしたり、野菜を

作ったり、地域のボランティア活動に参加したりと、毎日生き生きと過ごしている祖母が、具合が悪くなつて寝込んだことがありません。僕はとても心配で気持ち落ち込んでしまいました。腹痛の症状まで出てしまいました。そのとき、健康でいることは、自分のためだけでなく、周りの人のためでもあるということに気づきました。一人一人が健康に過ごすごことで、元気の連鎖ができて、その人に関わる人みんなが活力のある生活を過ごせるのではないかと思います。

日本WHO協会の健康の

定義では、「健康とは、病気でなく、弱っていないということではなく、肉体的にも精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態である」とあります。そして、健康で過ごすためには、「運動」「栄養」「休養」の三大要素が大切です。

僕は毎日、ランニングやサッカーなどをしていて、運動しているためにお腹がすいて、食事をたくさんとるようになりました。そして疲れてすぐ寝るようになります。体調が良いです。つらい練習でも頑張っているの、精神的にも強くなれたような気がします。監督やチームメイトなど、いろいろな人と出会い、コミュニケーションもとっています。

運動をすることは、「健康」に過ごすための基本に

なることだと言えます。少子高齢化が問題になっていますが、運動に親しみ、一人一人が健康であれば、僕の祖母のように高齢の方もまだまだ地域で活躍してくださるでしょう。僕のような若い世代も、さまざまなことに挑戦して力を発揮できるでしょう。

伊達市内にはあちこちに運動施設があります。運動できる催し物もいろいろあります。でも、それらについてよく知られていないように感じます。もっと利用方法や参加方法を宣伝して、気軽に行けるようなものになればよいと思います。小さな子供からお年寄りまで幅広い年齢の人が、運動に親しみ交流すれば、月館町も伊達市も活力のあるまちになるでしょう。そのためどんな工夫をすればよいか、これからみんなで考えていくことが大切だと思います。

## 「健康で過ごす」



中学生の部  
最優秀賞



月館学園中学校 2 年  
佐藤 亜矢斗 さん



小学生の部  
最優秀賞



伊達小学校 5 年  
大山 慶 さん

## 「ぼくとマラソン」

ぼくの住んでいる伊達市では、毎年夏に行われている伊達ももの里マラソンという大会がある。この大会は、全国から約七千人の方が集まる活気あふれる大会だ。ぼくは、年長の頃から参加している。親子の部門では、父といっしょに走り、入賞したこともある。

そんな中、参加している気づいたことがある。それは、会場でのボランティアの方々を成功させるため一生懸命に力を尽くしてくださっている姿だ。給水を始め、スタートの合図、ゴールテープ、タイム測定、案内など、様々なことにボ

ランティアの方々関わっている。今思い返せば、感謝の気持ちでいっぱいだ。また、折り返し地点を越え、つらくなってきた頃に聞こえてくる太鼓の応援は印象的だ。ぼくは毎年その太鼓の勇ましい音に励まされ最後まであきらめずに走りきることができたのだ。おそらくぼくだけでなく、参加者全員ががんばる力をもらっていることだろう。

その他にもこの大会で興味深いのは、色とりどりの仮装である。アニメキャラクターや桃をモチーフにしたかぶり物など、どれもアイデアに富んだものばかり

りで、見ているだけで思わず笑ってしまうほど楽しめる。そればかりではない。マラソン大会に参加すると、様々な特典がある。伊達特産の桃やオリジナルグッズのプレゼントなど、全国各地から集まるランナーに伊達のすばらしさをこれでもかとばかりに発信している。伊達の方々の温かさをいろんな所で見る事ができる、やさしさあふれる大会なのである。

ぼくは、この大会のファンの一人であり、毎年エンターリーするのを楽しみにしていた。しかし、それが叶わなくなってしまった。新型コロナウイルスの影響である。感染拡大防止のため、昨年今年と、二年連続で延期が決まった。今年はその代替として、オンラインマラソンイベントが行われたものの、年齢制限により、ぼくはエンターリーすることができなかった。あま

りのショックではばく声も出なかった。母から聞いた話によると、このオンラインイベントは、すぐに定員に達してしまつたらしい。つまりこのことは、全国各地にたくさんの方々が存在することの証となっている。早く新型コロナウイルスが終息し、この大会が再開し、再び全国からファンが集まってくれることを願いたい。その時、必ずぼくもその中の一人になっていることだろう。今から、その日がくるのがとても待ち遠しい。

ぼくは、この伊達の街並みが好きだ。限りなく広がる桃畑、ジージーと鳴き続けるセミの声、盆地特有の蒸し暑さ。そんな夏が一番好きだ。このような状況ではあるけれど、ぼくはぼくでこの大好きな街を走り続けたい。「健やかで活力のあるまちづくりを目指して」自分ができることをやっていきたいと思う。